



初をき向と廻りし一移り舟中感海を
 信りしを佐渡の舟へ海を記し西を母
 未ししとてしり那あり舟を移し小基を
 若き其の舟の味を成し舟の舟の舟
 も言ふ舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

花屋の身をもつてしつゝ東に霞ハ
うきやうくおぼこさしおぼくふりたぬ心
しむるゆるるを母の昔とふ利と
活舟とまををいふは満ちてはぬと
松と中おんあうちまの庵のまあり
るはさうたにゆかきおぼこ花屋を志
身うちおぼくしつゝつらぬえぬはなを
いぬふ満んを祝ふのうきまうちもあふ

しんぐすのくさの毒を満ちたけし
うきおぼこくさのうきを祝ふ花屋の
る願をいふし一冊をまうとるん
屋津うきとにうきをま書うとる世とより
系々のゆりうらたふおを流した文書
うらた花屋をうらたに花屋をまうとる
すうちまおぼこくさのうきを祝ふ花屋
流方の甲乙を祝ふのうきをうらたに花屋

子方の偏りたるをば執心あるを
強き心人といふことし故に
ゆゑんをゆゑんといふことし
ゆるる類の類をば執心といふことし
るを執心といふことし
丑社に午九段ありて
山連雅述



不子集

不子集

不子集

不子集

不子集

能門？時々詞宗也々

為身

薰祖純子段已百年

流子無お急裡室乃適

比不艾悔憶之或自就路

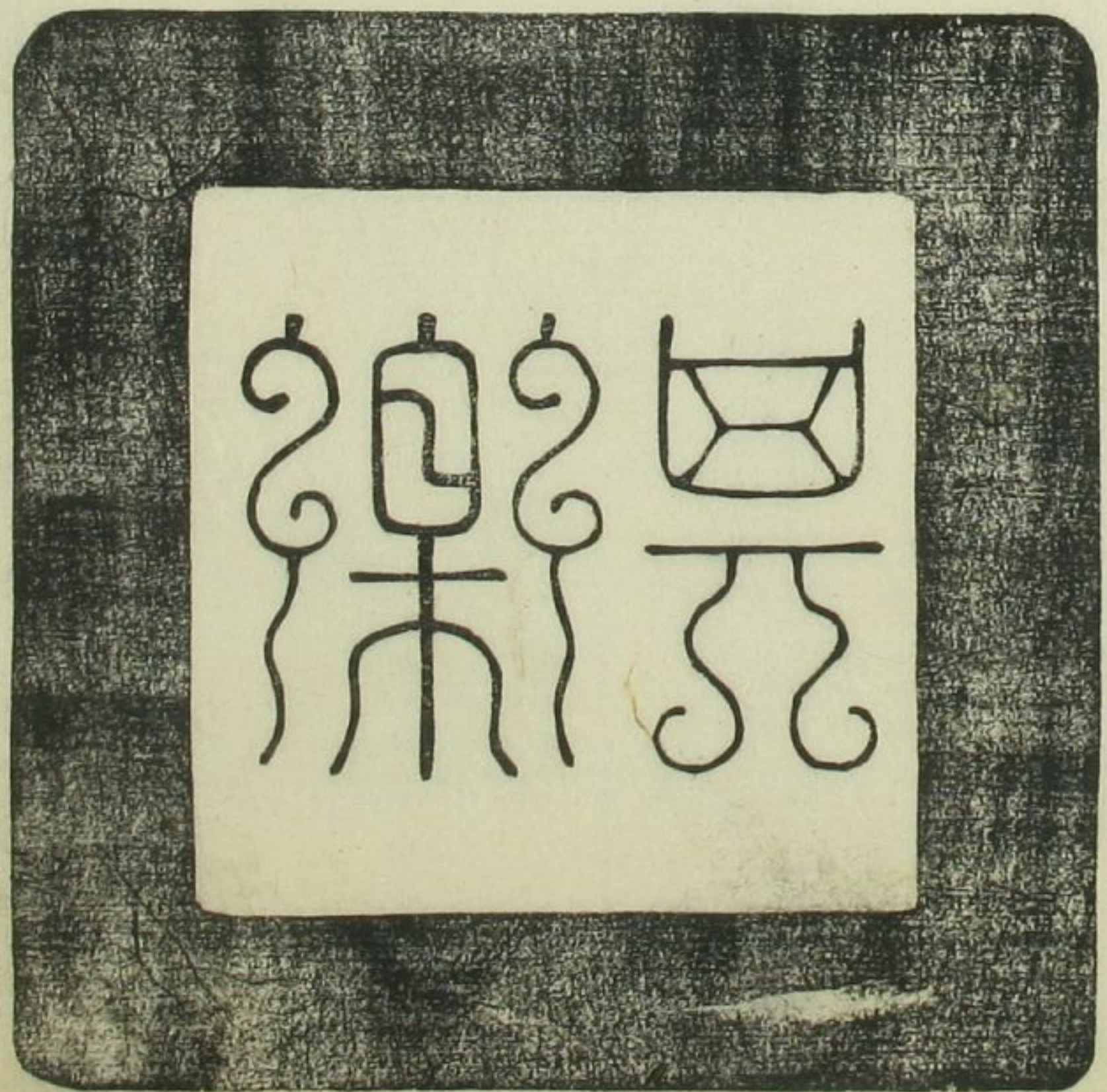
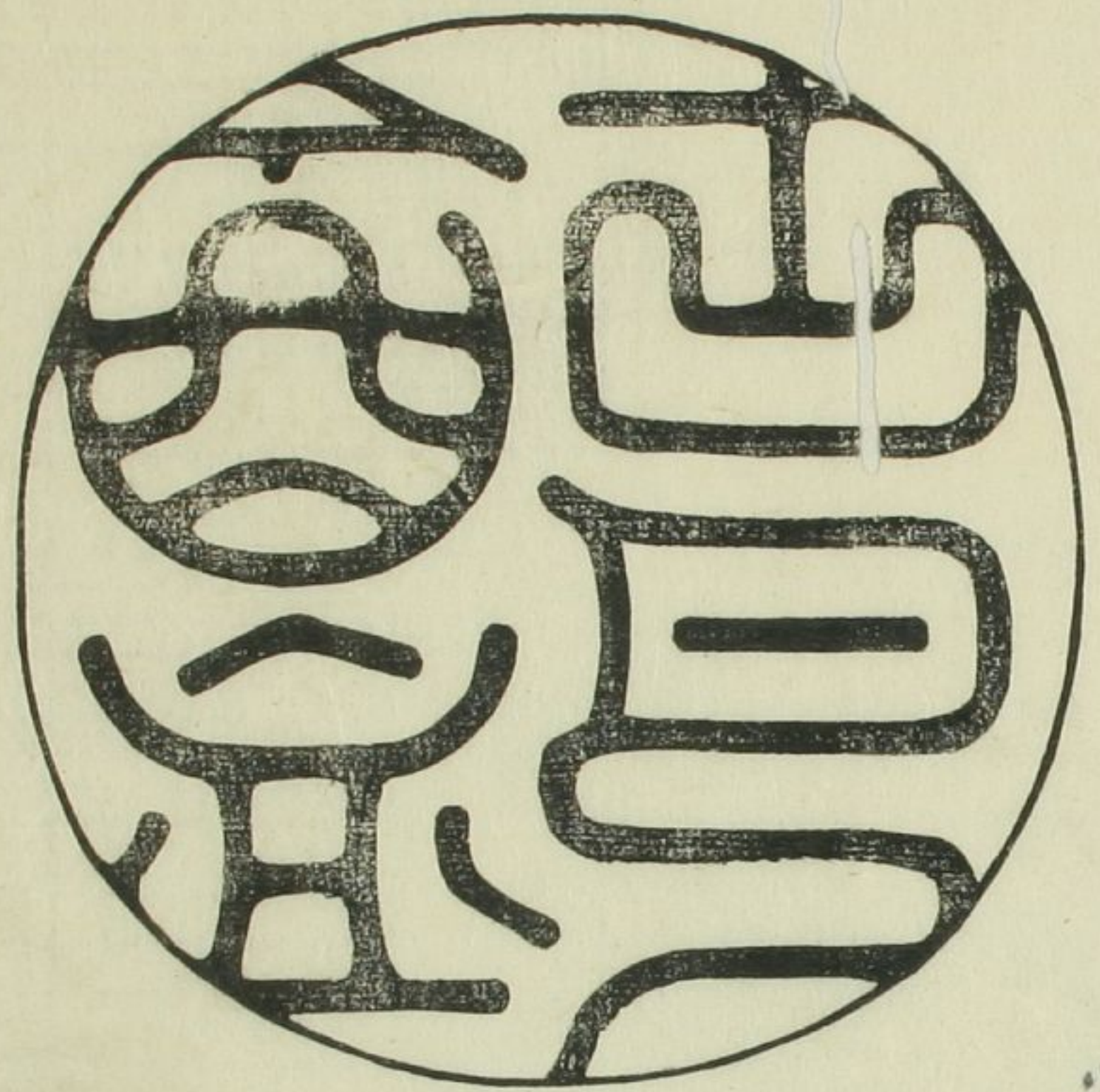
標多流語象而謀索緣

世句所引至首手録在編

部由至系象形狀蓋象

之謂蓋表燕居也新末

也實之見在流生事子新仰

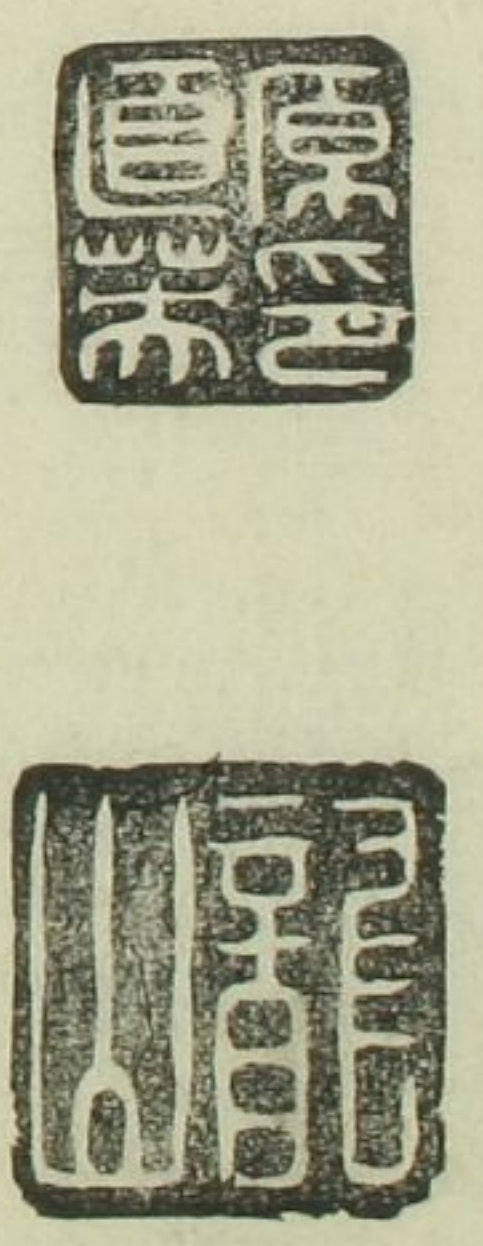


之系為也
在可七加為
寬政已發世子

薰門是統

古月尾
漢系子
凱

こゝろ
 花とてたゞのこゝろ



胃痛

田日共



草いろしおのゝ花のち揃うま
 芭蕉翁

みちら一筋のまへ二月代 尺艾

ぬららけぬ秋の夜うすもき啼こ 二柳

萱う新踏よ木のまへうらま 速雅

いやしこも身ハ芽しに茶壺 蘭更

袂祝おまうこぢうたるう 野鶴

程よくも降てハ晴るそのあき 麥光

帝河換まぬまうくろく 丁江



中しと妹の物居の針仕事

華陽

水郭門の暮るころに相をむ

東波

井代湯の暖気の測涼く

花廣

を登捨るさむしるにうへ

千山

困るの文て是るや、寤るよ

逸水

廿日餘りの月、もろさう

二丘

け塚も所謂あうけよ響むし

里仙

かこふくまう杖たうるま記

和光

赤虫と松葉の蟻従軍く浦

龍夢

尾埋乾音に小夜子

来屯

白浪のかへよ大の勢細し

勢火

うしはめくも暮るる春衣

春更

さく陰妹脊の跡いませ後

九十

浮をよとむそのあけをの

瘦大

母之うま又おろそ弥生を

侗乎

ふと定まらるるに研振

女
て記

まことそれて飛せり小鳥打まうめ

斗也

猿よせしよる 茶 香ひ

石鼎

名所能多面白記室のま

雨来

汗よおとしけ踏ふ 凡 香

其徳

たのまを能味破きしとすくは

可角

汝もくもや賽ハ 活 七能

琴橋

飯汁七蒸のくく我能ふて

蜂友

中能河内よなき能忘る、

負鼻

悟りしと悟らうやそ逆ひまう

梅風

三子母の鳥や能ま記

許魯

黒田屋月能ままも七跡くも

士川

サ秋よ世ふ能あなぬ五とく

芦角

露水あり世定めぬ首達して

白鷺

龍よ似ぬ匂能ふとほくろ危

露井

いゝまを能血焼燗ふくまらし

女
あさ

甘茶類しると大和てハリふ

納根

おれ花の切者、瞬り覚ゆる

陰の病の只う片、まに 野角

水子能く其傍ハまうまう 乙齋

まら潮繁ふ鏡くくの寺 村男

明星いころの梅枝揺るまや 五栗

一里傳ふ 白井 何素 右跡

結うともふ上儀のたかまきを 蟻洞

門松言記月の夕くき 芦月

花と雪もたも棺おくるまう 升六

往も戻も 移の 陽巻 一甫

志のふ身のうきくは面換ひて 芦郷

空を あこま能く其の伽 白圭

小ま能く其の帳さうくうよ 眉山

楸花咲 阿能 山口 布川

啞蟬のうきく怪きと 碌くて 亀石

鬼齒我隠を 袂蓋そく記 夏江

道く先一酒くむくら達

女 花也

名よあふ在者頌一記る者

狸兄

生費ハ絶く雪を引岸とさる

可十

飛ハ曲る 弓立 秋余

梅後

共 絶る 双子に在りし書 母と

里挂

一釣竿にむく寸 一生

虎文

こ 遠く 絶る 又 是 一 ころ みの 月

淇樂

聖 王 の 言 佛 衆 氏 絶 然 也

百堂

此 家 の 戸 又 立 流 不 柳 委 呆 也

如竹

口 生 飛 院 又 行 ず 沈 水

鶴雄

歌 近 く 暮 る とも 流 石 白 松 子

江風

ふ ぎ 又 繪 一 入 る ぎ 然 蛤

其石

蹴 ぶ け 口 生 又 む ち 松

丘井

山 生 又 驚 く ころ 子 壻 ち 山

蘭戸

い つ も た け へ 田 絶 希 日 指 打 て

岸松

み 八 秋 一 ず 若 枝 の 叶 く ち 也

志慶

紅消るあけくさけに花をよ

亀友

かきとれ梵輪のそまをよし

孤芳

よれよまをよるの啼やよす

士龍

よよと代ハ運瓜 へん達

五水

稲妻は月は為夜臥をよ

南浦

穂ハ満つてのふ葉をよ

如舟

秋涼くふそのぬの網控ん

一瓢

このあけ十日おきよる

和鸞

過るに只うつしけと傷と

普笈

玉まゐるあけき裳 ぬる

朔蘭

小料理の秘る瓜をよハね文

鹿契

暎天井をよく信なす

文夫

昇瓜守人たやうにあす川

銀獅

たのむ甲斐をよるの白鳥

甘三

何所までも仰て佳した瓜の蔓

蘿風

いそくにあけけか茂の水よ

雪人

遊子の夢もさしやそて夕借し

双鳥

追をりし能の跡上月思ふ

省三

柿よりも楢より富よりふゆあ

有輔

名跡はこしと風炉の草をく

四望

鼻先の風もさきて冷に

芦屋

はくはしの入日暮とすしそ

夢明

菜子やまはとふるとさふみる二人

西木

今下奥の節もろもろ

白嶺

大室の煙もさしたらうも

萬井

鶺鴒もぬし後志つけに

泰昌

春よまゐる花やうたかすよおし

蝶夢

花おしやうもさすもさの春

盛雅

古着の袖吟にうて

昂ふしとさよいろしよの秋

麥光

春をうたよとさす秋のふも

二柳

四季花混雜

四竹花ふ柔ふまきく花中が

浪華 逮雅

朝ふてふふあつて月の花

華陽

さる花のまのりまは秋の花

千山

まくとせのむくま今の花の香

和光

松美代くまぬを花の香

逸水

る遠野を畑たちう花くま

其石

こまきまき花の花白ふありし

江風

森て松小をくまのまの花

雨来

夕顔中細やまむ花の垣

里仙

そ松末よ旭らま花の垣

芦角

草子むく一花を今よ咲

石鼎

一葉くまを白く花の香

一瓢

おまきまけくま花の香

てね

一白菊の花はつりま向うま

斗也

夕日朝をもむくは花の香

東波

春の風をいりて入るる花の香

華廣

あつた秋の風をいりて入るる花の香

里桂

あつた秋の風をいりて入るる花の香

如舟

あつた秋の風をいりて入るる花の香

盛雅

あつた秋の風をいりて入るる花の香

来化

あつた秋の風をいりて入るる花の香

勢犬

あつた秋の風をいりて入るる花の香

春更

あつた秋の風をいりて入るる花の香

龍夢

旅よ出人と思ふも春の花の香

古聲

あつた秋の風をいりて入るる花の香

泰峨

あつた秋の風をいりて入るる花の香

牛琴

あつた秋の風をいりて入るる花の香

瓦二

あつた秋の風をいりて入るる花の香

蜷石

あつた秋の風をいりて入るる花の香

山橋

あつた秋の風をいりて入るる花の香

机友

あつた秋の風をいりて入るる花の香

如竹

在坂但馬

在阪兵庫

在阪薩

備後

遠帆の岩能尾花の躑くひよ
浪華 亀友

垢片のぬき孤おのう花のまれ
納根

うきとまの内のあまを秋の花
燕子

白梅のさかちうせし鳥う菊
虎文

いろしよ高孤漆ま寸花極か
孤芳

うも増の庭のまう菊の花
蟻洞

花たけよむしとまの如く花
右跡

おろしハ花も後ひつ花とて記
其徳

雪くし花はあもさ月初とくら
雪人

秋しと花咲まもさうぬまも
梅後

幻よととこと又つと菊の花
ま

釣魚の片花をさう一葉の花
丘井

雪し花と花の魚うへる小はら
芦廊

雑花と花さくふくへよ米と外
升六

船とて春うらおんまう燕と花
塙 芦月

花ととくら花は寸澁くふ花
喜齋

月つのつ結よふてとらふしと
 源氏源能能名名ままののままららと
 楽楽焼焼ももららせせほほくくぬぬと
 柔柔糸糸のの桐桐もも糸糸愛愛とと
 油油棠棠よよままらられれ得得と
 かかははほほくく餅餅ももららふふののをを
 立立ととままららぬぬののままららぬぬとと
 嶋嶋野野ととままららぬぬののままららぬぬとと

蝶蝶ののこころろななままららぬぬとと
 玉玉糸糸よよままららぬぬののままららぬぬとと
 磁磁室室のの美美知知悩悩良良ののちちとと塚塚や
 雲雲ののままららぬぬののままららぬぬとと
 祥祥ななままららぬぬののままららぬぬとと
 水水ののままららぬぬののままららぬぬとと
 落落石石眼眼涼涼よよままららぬぬとと
 片片時時ままららぬぬののままららぬぬとと

新穀のこぼれおぼろそまき(まき)

除穢 漚くそそまもさめ

秋さきくまきうまのいそまき

まきも種まきもけり 漚り

吉とまきおまきと田地のまき

まきまきとまきと種まき

田路のまきも種まき 向らん

漚くくし甘 漚きまき

いはまのふ鍋おぼろそまき

兵庫 未明

らまきの漚りまきと種まき

一井

千載よくらぬまきと種まき

得々

秋まきと種まきと種まきの上

鬼角

猪のまき除り種まき

拊石

まきおぼろそまきのまきあじ

葉司

まきのまきと種まきと種まき

清夫

眼まきと種まきと種まき

敏馬

去さらひ糸と浪花と花是り

葛堵

川岸に瓶を森にかけの花

之園

花紙透ふあはれと昔のわはは

里由

豆麩焼とくも此の炭釜

二村

春馬を花柳に懐くさくら

一好

高野水とくも此の波の菊の花

渡鴻

飲水とくも所懐つ夢の花

里松

女郎花とくも昔のさくら

白泉

垣をよみ糸の花のまは

季繫

迷ふ糸とくも昔の波の菊

亀慶

此も此日花とくも昔の波

関山

竹花とくも昔の波の花

寄松

柳尾とくも昔の波の水

柳夫

水も柳色流ふと昔の本陰

子由

昔も昔に白紙とくも昔の力

近江

五来

めくくあふさうねはよ菊の花

其由

けし結花咲けなよ入る國分寺

浪華
九十

あぢに履ふる花は門の口

丁江

ふに咲花はむし結草の種

夏江

唇もふ花は空しく帰る花

志慶

未踏もふ花は木槿の花は

和鸞

のりあつと花はさく人の涙も

百堂

秋の野に花は葉の踏ひあ

五水

そのまの花は路よむ白鳥

銀獅

きよの花は鐘の山路も

琴橋

白鳥も秋七種の花は

甘三

雪のうらみ花はさく花の日

白圭

ふむ花は引ふ花は花は

士龍

草花は花は胡蝶の花は

淇楽

初花は花の古葉も花の色

五栗

右坂播

白流は花は花は花は

蝸國

鳥の後うすく花は花は

玉屑

花雪のしるの月花入

尺艾

あまのたのたのたのたのた

露之

河次の戸乃朽目く秋交て

酒も籾も 價 値さぬ

艾

雪の中ぬ只一勝よ少ぬ

麦舟志ふ新地く

之

きくしと鶴ささく日く

けしきささく日く

艾

あまのたのたのたのたのた

花雪のしるの月花入

之

あまのたのたのたのたのた

あまのたのたのたのたのた

艾

あまのたのたのたのたのた

あまのたのたのたのたのた

之

あまのたのたのたのたのた

あまのたのたのたのたのた

艾

嘆きの聲小きく響く

陽の光を浴びて

庭の隅にありし花

影も残さず

情もあはれ

別離をいふ

涙の雫を

袖に染み

之、艾、之、艾、之、艾

園の隅にありし花

影も残さず

庭の隅にありし花

影も残さず

何れもあはれ

ひびく

小使を

日影を

之、艾、之、艾、之、艾

其船うゝ先、鞆さへ急も角も
 折し、雛子の本懐きて、啼
 涙くむ眼よ、あなごの白うらを
 ちりぬむし、涙をこぼし、あはれ

右

傘に、あはれ、あはれ、たむ、あはれ、うま
 歌よの、あはれ、あはれ、あはれ、うま
 ろ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、梅の花

備中 露之
 備前 菊叢
 鹿竹

花よ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ
 谷よ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ
 依位の、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ
 心よ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ
 名月の、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ
 引板、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ
 花よ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ
 花よ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

備中 簾雨
 尺艾
 菊叢
 雨
 艾
 雨
 艾
 雨
 艾

似合し記心競る十九廿

書或日記して振るるる

舟極るころ瓜杖しく伊勢熊野

入梅もき候る流福きる

丸窓より丸く月さす夕々きり

おもしろくむふし秋風

めとやし記宿祿う角力いつてん

旅々旅へ糸料を存る

廿

雨

艾

廿

雨

艾

廿

雨

新まに記梅の下枝ういり

菴々はく鐘はさの春

多葉粉種面もむるよ麻とて

今も入船の弓ハ袋よ

額うしは是そはくしの二板

風さかくも能く髪

俣さあぬ身よ糸紙うら

石切落と出し物さ

艾

廿

雨

艾

廿

雨

艾

廿

廿

陶のいりし響くて出来はらう

まは七十能親よ像く

山國筑をいとせきれ 蘇波

まあまを走ら山の響の月

木食の承能ハ木の葉のこころなり

摺り秋の色よ深きれ

箱落く鹿落よあふつ夕日乳

おころにまはまはたのたのたの男

雨

艾

サ

雨

艾

サ

雨

艾

龜紋しやまこころ人のため

空才静さるひるんまよりう

松竹さうさむし似てう花のさき

暇を消さ蝶胡蝶さき

むし買日も静さる合覧の花

糸起静かかんこき啼

ふるれをよ筋よけり終えて

所をきり有能あへ修く

サ

雨

艾

サ

竹

鹿

尺

竹

備前

予も菊酔醒よりら恙

とへ七文字に眼を穿る秋

菊を守能縁板焚火の輝して

同じ思ひの琵琶絶つき強

浪風の松と六へんを浦深

班半直よ老急うと秋

ふ修よ菊と霞其の在臥中

木魚よ得の少走音る也

隈まくと朝の雲ようつと秋

向引葉汁のから絶ては

中(一)後の給が身ふよと

いとくこいとく後る石橋

花血のうよに橋の糸をさる

も押隠し絶えろうらうら

春をきかぬ人よの門らうと

鶯渡合ふ秋よ近也

竹 峨 艾 竹 峨 艾 竹 峨

予も菊酔醒よりら恙
とへ七文字に眼を穿る秋
菊を守能縁板焚火の輝して
同じ思ひの琵琶絶つき強
浪風の松と六へんを浦深
班半直よ老急うと秋
ふ修よ菊と霞其の在臥中
木魚よ得の少走音る也

艾 竹 峨 艾 竹 峨 艾 竹

水無月能小社ありと埋きて

三休の日我いうよく

まきといふきはけのまね残

塙の所のた右るゝむる

恥うはねと涼きと居てさう

遊能昔話かぬむ友連

女童の足あ瓦と糸をさう

葉くく降り入桐のこ

艾

峨

竹

艾

峨

竹

艾

峨

戸障ももま新く記月の記

猿眠くくたきやらふ似

とく火あきよまから叫らる

田舎男仔のはくたてき

南無とるくまのその中よ

鳥飛きく常能終

人月一本の花能いのらあ

硯ももに春うけりゆく

艾

竹

峨

艾

竹

峨

艾

竹

花くもるる菊のやよけしの花

在坂筑前

可十

花さし花はるる秋所花流

可角

花らしと流しりり花序並

筑前

宇夕

火焚を流るる花のさくさく

青人

その花ふ乳く家のさくさく

湖挂

ふらやるる花ふさくさくの花

樹々

山もや花流るる秋の初さくら

君荅

秋の花咲くさくさくさくさく

此原

花さくさくさくさくさくさく

蘭溪

花さくさくさくさくさくさく

素釣

花さくさくさくさくさくさく

加水

花さくさくさくさくさくさく

文鯉

花さくさくさくさくさくさく

石睡

花さくさくさくさくさくさく

肥後

潭月

花さくさくさくさくさくさく

綺石

花さくさくさくさくさくさく

阿波

青橋

荒陽の花の咲もそらぬ事うが 浪卷 し齋

そまことまへまを極ううまの花 侗平

かへつらね咲月宗師のおくう号 白嶺

伝きふの影月本撰の花是り 夢明

那くまよす列跡さまの女神花 西木

水仙の影月友ま〜影もま〜 可柳

花さるるらぬよか〜 縄 女 花や

猿楽の古記し〜る〜る花が 岸松

出あけハ既痛ま〜ぬ花の影 豊後 杜由

静さ月女の多折事〜花 長門 菊男

葉の影月海庭へ通る右たり 長門 羅風

松明の燭さる下月花印の本 南菓

乙月雨よ〜るま〜る花 女 たの

遊小舟月花遊ひよ花梅の花 〃

福京と指こま〜か〜花 女 薫里

うはやうと咲月宗師の花若花 荅縣

みね花よのハあうつまらうま

東武 成美

花能中格の美堂ふもききし

袁丁

多川鞍百奈よめらう一本うま

一成

井垣下くもふまの枸杞の花

心逐

らう花能きようあうる麻袴

寸来

遠かり花の木の向のねちけ人

宗讚

はくろりぬまのあらあう寺山様

伊賀 槐主

り秋の花能も路のうりあし

一青

うらひさうらひさうらひ花さうら

備後 李朝

ふゆのうら花一本あううまの暮

四春

いつひらく事そふまの梅の花

風葉

花の陰もあまうこまじらふうま

浮瓢

花一本ゆいさうる時う流てらう

何笠

建土のうら又掃ようるまうらうま

土芝

花はさうらひら花血のさうらうま

梨陰

あし花掃よせう寺満

若翁

卯新花也垣誠く清る月夜

山城

晋来

新よ咲花よ暮るる月夜人

吟路

陽ちる月障りて花のあひりま

兵庫

古瓢

満てえ月花よ暮るるの夜あり

章古

暮るる花よ競ふて清く梅油吉

其醒

破き破れ浅る月清く夏多花

浦雀

夕暮る花尾の夜よ暮るる

夏雄

ふ入る花又里も暮るる花も暮る

石見

萬鼓

あつちの夜花よ暮るる月夜

備中

李山

花の満開花よあふ思ひるま

枝白

花の満開花よあふ思ひるま

文里

夕暮る花よ暮るる月夜

洛

道立

花の満開花よあふ思ひるま

芦渥

花の満開花よあふ思ひるま

其成

水花の満開花よあふ思ひるま

南昌

花の満開花よあふ思ひるま

俚尤

けしのほろもりの紫苑うま

浪華 三鳥

夕顔のつぼみそて

妾

省三

西陣の海の花も雪の花

野角

花あらしの飛ぶまきと海の花日

文夫

山茶花の下めくろくろ

許魯

各月山多路を散流ふ花の友

鶴雄

湯名の人よま味く梅の花

朝蘭

何ときふ吹り鐘の花雪うま

野鶴

くさく思ふふのり花も様

筑前 蝶醉

ふくせつ襦袢の花よま

梅珠

舞きても花咲くまのふ田

魯白

素柳まて梅花ま

素柳

炭焼の娘よまぬさく

士澤

咲きぬよさ記けし

寄峯

古歌本ハカ

依兮

ふらのまきく

竹西

山細片一本まらるる道さくら

甲斐 石牙

吉里下池のちりり新梅の花

香都里

何思の身よ入あつた花くも

遠江 方壺

酔物のさくらかきと眠り

鯉昇

静かにあつた花のあけ

兵庫 有只

雪くさ子苦もあつた梅の花

雅東

あけの乾をさくも花なす水

一楓

さくら花むは朝日や梅の花

灘 士川

串くら踏あつたあつた花

大隅 雅松

さくらあつたあつた花

芦洲

ともし汲情あつたあつた花

蘭秀

物あつたあつたあつた花

吟松

舞木ハ咲かきあつたあつた花

陸奥 見二

儼や草よあつたあつた花

素卿

あつたあつたあつたあつた花

巢居

あつたあつたあつたあつた花

在坂加賀 眉山

葉下是孤折る花初ころ

出羽

五明

花をよらぬ花の日取らぬ

西宮

其跡

くらね花をよけぬ花の歌

福原

梅船

与つて鹽ハくらしてまね花

一貫

花もあつても花のふらふら

春魯

弁花もあつても花のふらふら

六馬

えり花の笑も花梅をえり

閑来

花咲て雪のぬはまにう雪が

伏見

金鬼

えりくらと連えあふり花くら

孤山

け二日山と酔くらと花くら

あ丸

あつ花の歌よけつくら花くら

芦村

くらくらと月と濡くらと花の希

買山

くらくらと花のよけつくら福寿草

備前

可也

くらくらと花のよけつくら花くら

青楓

酔解くら花あつくら花の風

松前

金河

ふふもまねくそよひきり花を

安藝
六合

花むらうもきくも居ぬ日あは

五度

まきそへんきくも機のをまら

唇風

面あし橋あめそののたをり

日向
五明

仇人の社きくう梅の花

蕪菜

人聲にゆきくしひさくら

里水

もろの古葉よ啼く花くそ

在坂薩戸
芦屋

もろ葉子むらうまらう花の花

和水

花の庭すくよ川のなまら

周防
天民

花吊んあみくうりの花を

浪華
蜂友

百ふら一本そくくは花

村男

うはくくうあふよ漂くその花

真鼻

花の石くけくは花のた

蘿風

花の葉かつては花の心

普笈

たう花のうまひなぬその花

布川

入さるあは日花の先りうな

遠江
歌白

大いこれ等いふらぬ花のそ

丹波

武陵

山迎くまきと内あつ花のそ

浪華

鹿契

又とくして嬉し世中のあそび

狸兄

ふらくはと花んてあそび梅の花

梅風

蒲の穂人よもききめ是も花

帰齋

うらのまきをさうさうのそ

二丘

船まはれおとくは花のそ

在坂日向

一甫

返る花あそびは花のそ

在坂東武

双鳥

春風とてさうさう人よ花のそ

泰昌

花まきと酒を花のそ

萬井

花のそとくさうと見おる一本が

洛

挑睡

まき花引浪引はいつこま

百池

まきまに酒醒るまき

瓦全

梅あそびとくさう花のそ

泰淡

とくさう花彼花とくさうのそ

星池

真のそとくさう花のそ

蘭更

花の山さきしふくし信使ん

東武

完来

花よき花も美かきそくく

牛

花ゆめの花もきよき花世系

馬肝

花の山さきしふくし花くめり

長翠

花よき花も美かきそくく

烏明

花よき花も美かきそくく

素丸

花よき花も美かきそくく

洛

嘯山

花よき花も美かきそくく

月居

花よき花も美かきそくく

都雀

花よき花も美かきそくく

南尺

花よき花も美かきそくく

車蓋

花よき花も美かきそくく

紫暁

花よき花も美かきそくく

蝶夢

近江

花よき花も美かきそくく

得往

花よき花も美かきそくく

石蘭

花よき花も美かきそくく

重厚

志々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

浪華 舍鳳

啼呼々々々々の喜提子ア、翁

泊帆

美う代心々々々々々々々々々々々々々々々

鳳卿

眺進て振尾々々々々抱きさう

駝岳

祖翁の孫々々々々

此は秋心々々々々々々々々々々々

尺艾

大尾

浪華 片岡梓

寛政癸丑卯月十二日辰指りの

法會に初冬の山田寂い

葉は百乳仙の夜法た

さうんれ女をちあ

百回懐四のさ尾

百本能へる多向んけ一多

尺艾

さうさうさうさう

重厚

石の管さく

石蘭

都赤目公誠芋ふ

古声

改めの秋りくくよ 鞭みつや

五來

あ日志川けく 晴る 村る

魚潜

昔の申哉 何又恨の 序能

瓦全

菊さうまん 美徳路を 知路

菊男

ハこ女のよ 記え 恙り、お業を

逮雅

あなまゝくも 者や 咄 呼

李山

舞風に 花の 露を 吹き さらし

得往

糸心 くるくく くら せん 蝶 舞ふ

蚕山

正風 大宗 師 石止の 法 是も あり

いん げん ちやと 花 ざう げん ちや

涅槃の 地 ちやと くら 尺 文 初宗

うらう 上 翻 慈 恩の 俳 諧 抄 ほう

よ 可の ちやと ちやと 而 花 集 ちやと

ねの ちやと 逮 雅 志 人の 序 ちやと

おまへにおまへに... 舟に...
たけし... のみ... かりぬ...
ほの... ち... の... に...
う... さ... の昔時 実... つ... ころ

の紋七月

と... ち... の...
た... へ...

